

第 63 回入学式 学長式辞

2017.4.5 学長 西内みなみ

第 63 回生の皆様、桜の聖母短期大学へのご入学おめでとうございます。1955 年に開学した本学は、皆様と共に、63 年目の春を迎えています。聖母マリア、創設者聖マルグリット・ブールジョワと共に、桜の聖母短期大学は、皆様のご入学を心から歓迎しています。まず、皆様が、桜の聖母短期大学で学ぶことを選択して下さったことに、心から感謝します。先の震災以来、多くの若い方々が福島を去る中、皆様は、ここで学ぼうと決意して下さいました。震災から 7 年目、この福島で学校を続けられるのは、多くの選択肢の中から、桜の聖母短期大学を皆様が選んで下さったおかげです。本当に、ありがとうございます。

先ほど、朗読された聖書のみ言葉を初めてお聞きになった方も多いでしょう。その時代背景やキリスト教の価値観については、授業でしっかりと学んで頂きます。ただ、聖書に書かれた昔話ではなく、そのみ言葉は、今も生きて、この桜の聖母短期大学で働いている事を、この二年間で実感して下さい。聖書に描かれているのは、イエス・キリストを身ごもっている聖母マリアが、山路を越えて、遠い親戚のエリザベトをご訪問する場面です。この「ご訪問の聖母マリア」は、桜の聖母短期大学にとって、最も大切にしている「建学の精神」を表わしたシンボルです。聖母マリアは、たぶん 10 代でしたから、皆様と同じ年ごろのおとめでした。赤ちゃんを授かり妊娠していました。自分も妊娠して、たいへんであったにもかかわらず、たぶん 40 代くらいの親戚のエリザベトが高齢で妊娠したと聞き、心配して、遠く離れた山里までお見舞いに行きました。そして、2 人が出会った場面、この聖書の場面が先ほど朗読され、さらに、短期大学の正面玄関にある美しいステンドグラスに描かれています。その時、聖母マリアのお腹には、イエスキリストが宿っていました。聖エリザベトのお腹には、洗礼者ヨハネが宿っていました。聖エリザベトが聖母マリアの声を聞いたときに、胎内のお子が喜んでおどったと聖書にはあります。つまり、お腹の中にいた洗礼者ヨハネになる胎児が、聖母マリアの声を聴いて喜んでおどったという事です。聖書のなかで、洗礼者ヨハネは、やがて、イエスキリストに洗礼を受ける方です。

このみ言葉に描かれた場面は、今、まさに、私たち桜の聖母短期大学の教職員の心境です。保護者の皆様の胎内に宿った新入生の皆様に私たち教職員の胎内にある桜の聖母のミッションが喜び踊

っています。世界に一つしかない美しいステンドグラスに描かれた「ご訪問の聖母マリア」の精神、それは、心配な方がいたら、妊娠している我が身を省みず、ご訪問する、この愛と奉仕に生きる聖母マリアの精神です。そして、それに倣って 360 年前、日本は、まだ江戸時代です。フランスから、大西洋を船で 2, 3 か月もかけて、未開地のカナダに、出かけて行って、多くの子どもたちや大人たちに教育を授け、愛と奉仕に生きた聖マルグリット・ブールジョワの精神です。聖マルグリット・ブールジョワの設立した修道会はフランス語で「コングレガシオン・ド・ノートルダム」日本語に訳すと「聖母マリアの修道会」といいます。この修道会は、未開地だったカナダの発展に大きく貢献しました。聖マルグリット・ブールジョワは、カナダの方なら誰でも知っているシスターであり、聖人であり、カナダでは建国の母として敬愛されています。そして、何よりも、優れた教師でした。

カナダの建国に大きな貢献をした聖マルグリット・ブールジョワの修道会が、1932 年、今から 84 年前、5 人のシスター達を日本に派遣して下さいました。それが、東京でも、仙台でもなく、この私たちの街、福島市に、です。これも奇跡です。福島市に修道院を開設され、まず、幼稚園を、そしてその子たちが進学する小学校を、中学校を、高等学校を次々と開設されました。そして、その高校生たちに高等教育を受けさせたいという願いから、62 年前、1955 年に開設された学校が、この桜の聖母短期大学です。フランスから派遣された聖マルグリット・ブールジョワがカナダで愛と奉仕に生きたように、カナダの修道会から、派遣されたシスター達も、福島の子どもたちや大人たちのために、愛と奉仕に生きて下さいました。その歴史と伝統によって、今日、私たちは、63 回生の皆様をお迎えする事ができるのです。

文部科学省は 2016 年(平成 28 年)3 月に、いわゆる「三つの方針」といわれる「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)及び「入学者受け入れの方針」(アドミッション・ポリシー)の策定及び運用に関するガイドラインを発表しました。これに基づいて、大学設置基準施行規則が改正され、2017 年(平成 29 年)4 月 1 日から施行されることになりました。まさに、皆様が入学されるこの年からです。桜の聖母短期大学は建学以来、「ご訪問の聖母マリア」の精神、そして聖マルグリット・ブールジョワによって現された「建学の精神」である「愛と奉仕に生きる良き社

会人」を育成することを、学則に掲げて大切に継承してきました。文部科学省のガイドラインの策定を受け、桜の聖母短期大学では全教職員で議論に議論を重ね、この「建学の精神」のもと、私たちが育てたい学生像を設定し(ディプロマ・ポリシー)、私たちがどのように育てたいのかという方法を設定し(カリキュラム・ポリシー)、それを公表しました。また、私たちが入学して頂きたい学生像を設定し(アドミッション・ポリシー)、適切な方法で入学者の選抜・受け入れをしています。この桜の聖母短期大学の「三つの方針」は、皆様にお配りする学生ハンドブックや、本学のホームページにも記載されていますので、ぜひ、お目通しください。皆様が、桜の聖母短期大学で「どのような教育」を受けられるのかが明示されています。

私たちは「どのような教育」を実現したいと願っているのか。私が学生の頃、大学の付属学校で教育実習をさせていただいた時、実習先の学校長であった寺崎昌男教授の講義のノートを、今も大切に手元においています。寺崎先生は講義で、フランスのレジスタンス詩人ルイ・アラゴンのかの有名な一文を紹介されました。

学ぶとは心に誠実を刻むこと

教えるとはともに希望を語ること

そして、「私が教える」ということによって、「あなたが学ぶ」ということを、どれだけ引き起こせるかが、教職に就く者にとって最も重要な課題だと学びました。私達教師と学生がともに希望を語り合うことによって、ともに心に誠実を刻むことができるかが、私たち教職員の使命です。

ルイ・アラゴンは1943年ストラスブール大学の数百名の学生がナチスに銃殺、逮捕されたことを題材に「ストラスブール大学の歌」を書きます。ストラスブール大学はナチスの戦火を逃れてフランス中部に疎開していたのですが、その困難の中でも大学を続けたのです。そしてそこではまさに教えることが希望を語ることだったのでしょう。私には、震災後の桜の聖母短期大学の姿が、そこにあるように思えてなりません。学生からいただいたかけがえのない二年間を、たっぴりと時間をかけて、ゆっくり、豊かに味わいながら、「建学の精神」をともに生きる同僚達と、学生の皆様にかかわり続けたい。学生一人ひとりの成長を、ともに喜ぶ教職員の一人であり続けたい。そして、学生や同僚達とともに、希望を語り、誠実を心に刻む時を創り続けていきたいと願っています。

新入生の皆様、覚えていて下さい。桜の聖母短期大学の教職員は、いつも、必要とされているところにはどこにでもいく、本学の「建学の精神」に謳われている「愛と奉仕に生きる」聖母マリアや聖マルグリット・ブールジョワのようでありたいと努めています。そして、2年間で皆様を、思いやりと行動力のある女性、compassionのあるsmart woman「愛と奉仕に生きる良き社会人」として社会に送り出そうと、私たちは、最善を尽くす事を、新入生の皆様にお誓いします。そのために、様々な授業や学校行事を準備しています。本学の授業は、教室でしっかりと知識や技術、そして豊かな教養を身につけ、「ご訪問の聖母マリア」のように、創設者聖マルグリット・ブールジョワのように、様々な地域やコミュニティ、海外にも出かけていきます。教室と同じく、地域や世界が、皆様の学びの場です。アクティブに学びあいましょう。このような学びを通して、皆様は、1万人を超える卒業生がそうであるように、必ず「愛と奉仕に生きる良き社会人」として、美しく成長されます。

保護者の皆様、高いところから、たいへん恐縮です。お嬢様の選択を尊重して頂き、多大なるご支援を賜ります保護者の皆様に、深く感謝します。教職員一同、お嬢様お一人ひとりを大切に支援させて頂くことをお誓い申し上げます。また、ご多忙中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、兼任教員の皆様にも御礼申し上げます。桜の聖母短期大学のこの歴史と伝統を大切に継承し、さらにより良い教育活動をしていくことを、お誓い申し上げます。

さあ、63回生である新入生の皆様皆様と共にしっかりと学びたくて、ワクワクしている教職員がいます。皆様と共に、様々な活動をたっぴりとしたくてウキウキしているビックスターである2年生がいます。2年間は、瞬く間に過ぎ去ります。さらに短く感じられるほど充実させましょう。あなたの夢をここで実現し、あなたがなりたい自分になり、愛と奉仕に生きる良き社会人として母校を巣立つ日まで、私たち教職員一同は、いつも皆様の傍らにいて支援します。

63回生の皆様とそのご家族に、そしてこの桜の聖母短期大学に集うお一人おひとりに、

主イエス・キリストと聖母マリア、聖マルグリット・ブールジョワの豊かな祝福をお祈りして、式辞といたします。